

日本語の「で」¹⁾と中国語の“就”²⁾

——許容範囲を指示する用法を中心に——

馬 小 兵

The Japanese “De” and the Chinese “Jiu”

Ma Xiaobing

本稿认为日语的「で」和汉语的“就”都具有表示许可范围的用法。本稿首先对以往有关上述日语的「で」和汉语的“就”的研究成果进行分析和总结，并指出其问题所在；其次，针对「で」和“就”表示许可范围的用法，着重分析了其句法意义和特点，指出出现在「で」和“就”之前的词类特点，归纳了能够成为「で」和“就”的述语的词类性质；最后，总结了两者之间的对应关系。

1. はじめに

(1) a 「今日で結構です。」

“今天就可以。”

b “我们就行的话，……”

「私たちで良ければ、……」

用例(1)が示すように、上記の、日本語の「で」と中国語“就”は、かなり対応していると思われる。

しかし、(1)における「で」と“就”は、それぞれどのような意味を示しているのか、またどのような条件のもとで対応するのかなどについて、今までまだ明確に説明されていない。

本論文は、まず(1)における「で」と“就”の意味と用法を明らかにし、

それから両者の対応関係をまとめてみたいと思う。

2. 「で」に関する先行研究と問題点

(1)で挙げた日本語の「で」の意味と用法に関する従来の研究の主なものとして、森田（1980）や馬小兵（1996a、1996b）などが挙げられる。ここでは、まずそれらを概観し、その問題点を確認しておこう。

森田（1980）をまとめると、次のようになる。

- a. 「で」が特定の人物（単数）を受けて状態性の表現を成すことがある。
- b. その場合「最低限」の意を表す。
- c. その場合可能を表す形容詞や状態動詞が後に続く。

しかし、これらは、以下のような問題点がある。

まず、(2)が示すように、特定の人物（単数）以外の名詞を受けた場合でも、森田（1980）bとcが当てはまる例が存在する。よって、森田（1980）aの「特定の人物（単数）」という現象は名称を成さない。

- (2) a 「写真でよければいろいろありますよ。」
“如果照片就可以的话，有各种各样的。”
b 「私たちでよければお手伝いします。」
“如果我们就行的话，很愿意帮忙。”

次に、「最低限」の意について、森田（1980）は「これも、能力的に認

め得る最低範囲の限界点を「だれ」と指定する「で」の発想に由来する。
“その指定した人物以下ではだめ。最低の線がその人物だ”という範囲の
ワクの設定である。」(p325)と説明している。

しかし、以下のような用例がある。

(3) a 「子供でいいから、手伝いに来てくれ。」(森田(1980)の例)

“孩子就行，来帮一下忙。”

b 「私で良ければ行きますよ。」

“如果我就合适的话，我去。”

c 「写真でよければいろいろありますよ。」

“如果照片就可以的话，有各种各样的。”

(3)aでは、「最低限」の読みがあるとしても、(3)bとcでは、特に「最低限」という意味を感じられない。例えば、(3)cについて、次のような場面が考えられる。

(4) 「一度、その流氷が寄せてくるところを、見たいわ。」

“想看一下那浮冰飘浮过来时的情景。”

「今年はまだ終わりました。」

“今年已经结束了。”

「来年は……」

“明年呢?”

「流氷の写真でよければいろいろありますよ。」

“如果浮冰的照片就可以的话，有各种各样的。”

(4)の場合は、「流氷の写真」の他に、「流氷の模型、流氷の絵、流氷の

スライド、流氷のビデオ」など、いろいろ考えられるが、その中のどれかが「最低限」のものになるとは説明できない。よって、「最低限」だけでは、このタイプの「で」の用法をはっきり説明できないと考えられる。

一方、馬小兵（1996a、1996b）は、このタイプの「で」を、許容範囲³⁾を示すと位置付けており、さらにその許容範囲に二つのタイプがあると説明している。

(5)「今度パーティを開くのですが、ご主人に出席して頂きたいと思ひまして、」

“这次准备举行宴会，届时想请您丈夫光临。”

「申し訳ございません、あいにくその日は主人、先約がございまして、

でも、私でよろしければ喜んで出席致します。」

“非常对不起，不巧我丈夫那天已经有前约了。但是，如果我就可以的话，我很愿意参加。”

(6)「荷物はどこに置けばよろしいですか。」

“行李放在哪儿好呢?”

「荷物はロッカーの横でいいです。」

“放在柜子旁边就可以了。”

(5)では、「私」に比べて、明らかにより適当な人物（主人）が存在するという読みがあるので、「で」によって指示される許容範囲に序列の差があることを感じられる。

一方、(6)では、「ロッカーの横」に比べて、より適当な所が存在する

という読みが特にないので、「で」によって指示される許容範囲に序列の差があることを感じられない。

しかし、馬小兵 (1996a、1996b) では、このタイプの「で」の構文的機能にはふれたものの、以下の問題について説明されていない。

- a. このタイプの「で」は、文においてどのような成分の役割を果たしているのか。
- b. 中国語の“就”とどのように対応しているのか。

3. “就”に関する先行研究と問題点

このタイプの「で」に対応すると思われる“就”については、従来あまり論じられておらず、馬欣華・常敬宇 (1980) が見られるくらいである。

馬欣華・常敬宇 (1980) は、副詞の“就”の文法的特徴の一つとして、“表示所需的数量少、时间短，‘就’前常带数量词。例如:” (p59) 「必要な数量が少なく、時間が短いことを表し、“就”の前に数量詞がよく現れる。例えば、」と説明している。

(7) a “用不了那么多人，三个人就足够了。”

「こんな多くの人是要らない。三人で十分だ。」

b “买这件东西，五块钱就足够了。”

「この品物を買うのに、五元で十分だ。」

c “这个任务，三天就能完成。”

「この任務は、三日でできる。」

d “这口缸，有两桶水就满了。”

「この水がめは、バケツ二杯分で一杯になる。」

しかし、(8)が示すように、“就”の前に現れるのは数量詞でない場合もある。

(8) (Aが徹夜した後)

A：“有什么刺激性强的(喝的)吗?”

「何かカフェインの強いものないかな？」

B：“对不起，咖啡没有了，红茶行吗?”

「ごめん、コーヒー切らしているんだ。紅茶でいいかな？」

A：“红茶就行。”

「紅茶で構わないよ。」

また、(9)が示すように、“就”の前に現れるのが数量詞である場合でも、必ずしも「必要な数量が少なく、時間が短いことを表す」とは限らない。

(9) “三百万日元就够，赶快拿来。”

「三百万円で足りるので、早く持って来い。」

4. 許容範囲を指示する「で」の構文機能

馬小兵 (1996a、1996b) は、このタイプの「で」の後に現れる述語について、大体次のようなものがあると説明している。

「いい(よい)、よろしい、構わない、結構だ、だめだ、十分だ、足りる、出来る、納得する、役立つ、分かる」

また、これらの語の特徴について、次のようにまとめている。

- a. 「いい（よい）、よろしい、構わない、結構だ、だめだ、十分だ」などの形容詞（形容動詞を含む）は、主観的な評価の要素が強く、容認・許可の意味も含まれている。
- b. 「出来る、分かる」などの動詞は、可能な意を持つ。
- c. 「足りる、納得する、役立つ」などの動詞は、可否の判断を示し、容認・許可の意味も示す。

本論文は、上記の分析を踏まえ、このタイプの「で」は、許容範囲を示す機能を持つと考え、その構文機能について、次のようにまとめている。

A. 主語にあたる語句の出現可能な位置に現れる。その場合、通常主語を示す「が」格にはないニュアンス——許容範囲を示す。

(10) a 「大学院生でよい。」

“研究生就行。”

b 「大学院生がよい。」

“研究生行。”

(11) a 「私で出来ることなら、何でもお手伝いしましょう。」

“如果是我就能做的事，无论什么都可以帮忙。”

a' 「私が出来ることなら、何でもお手伝いしましょう。」

“如果是我能做的事，无论什么都可以帮忙。”

b 「君で出来る簡単な仕事だ。」

“你就能做的简单工作。”

b 〱 「君が出来る簡単な仕事だ。」

“你能做的简单工作。”

c?? 「私で出来る。」

“我就能做。”⁴⁾

c 〱 「私が出来る。」

“我能做。”

d 「これぐらいのことなら、私で出来る。」

“这种事情，我就能做。”⁵⁾

d 〱 「これぐらいのことなら、私が出来る。」

“这种事情，我能做。”

以上、(10)が示すように、形容詞が述語になる場合は、「で」は主語を示す「が」格の出現可能な位置に現れ、許容範囲を示す。

一方、動詞が述語になる場合は、やや複雑になる。具体的に説明すると、(11)cのように、単独の文として、使用される際、許容度がかなり低い。しかし、(11)aのように、文末の形を変え、条件文にすると、或いは(11)bのように、文全体を連体修飾語にすると、或いは(11)dのように、文の前に「格下げ」⁶⁾のような意味を表す条件文を入れると、文としては、充分通用する。

ここで注目し値するのは、日本語の「で」の場合、(11)cのように単独の文として使用される際、許容度がかなり低い、中国語の“就”は(11)cのように単独の文として使用されても成立することである。

B. 主語にあたる語句以外の位置に現れる時もある。その場合、やはり許容範囲を示す。

(12) a 「私で相手が納得するか？」

“就我的话，对方能满意吗？”

b 「私、一度でいいから、流水にのってみたいんです。」

“我一次就行，想坐坐浮冰。”

c 「学芸欄ですから七枚で結構です。」

“因为是文艺科学栏，七页纸就可以了。”

5. 許容範囲を指示する“就”の構文機能

本論文は、中国語のこのタイプの“就”の意味は、「必要な数量が少なく、時間が短いことを表す」というより、許容範囲を示すような役割を果たした方が適当だと考えている。その構文機能について、次のようにまとめている。

A. (13)が示すように、“好、合适、可以、行”など後続語と呼応して、許容範囲を示す。

B. (13)が示すように、“就”の前に“5分钟或10分钟”のような数量詞のみならず、“加坐”のような普通名詞が現れる時もある。

C. “就”の前に普通名詞が現れる場合は、その名詞が主語にあたる語として理解してよい。

D. (14)が示すように、可能を表す動詞が後に続く場合、中国語の“就”は単独の文として使用されても成立する。但し、その意味は多様に取れる場合もある。

(13) a “5分钟或10分钟就行了。”

「5分か10分で結構です。」

b “如果加坐就可以的话，也许还有办法。”

「補助椅子でよかったら、なんとかできるだろうな。」

(14) a “如果是这样简单的英语，我就能翻译。”

「このくらいの英語なら、私で出来る。」

b “我就能翻译。”

?? 「私で出来る。」

6. 日本語の「で」と中国語の“就”との対応関係

以上論じたことをまとめ、日本語の「で」と中国語の“就”との対応関係は、以下のようになる。

A. 許容範囲を示す点において、日本語の「で」と中国語の“就”は基本的には対応している。

- a. 両者は、主語にあたる語句の位置に現れ、そして通常の主語の示し方にはないニュアンス——許容範囲を示す。
- b. 形容詞が述語になる場合、両方とも主観的な評価の要素が強く、容認・許可の意味も含まれている。

B. 動詞が述語になる場合、日本語の「で」の場合、単独の文として使用される際、許容度がかなり低いが、中国語の“就”は単独の文として使用されても成立する。

7. 終わりに

本論文は、許容範囲を指示する日本語の「で」と中国語の“就”の用法に焦点を当て、それぞれの構文機能を探り、両者の対応関係をまとめ

てみた。許容範囲とは、話し手が発話する時の容認・認可できる範囲である。話し手の許容範囲が表される時、「で」または“就”によって指示される。「で」または“就”が許容範囲を指示できるのは、主に「で」または“就”に後続する述語の意味に関わりがあり、「で」または“就”の役割がただその印として働く。「で」または“就”の後に決まった述語が現れないと、「で」または“就”のこのような役割は果たせない。

【参考文献】

北京大学中文系1955級、1957級语言班編（1982）《現代漢語虛詞例釋》，
商務印書館

侯学超編（1998）《現代漢語虛詞詞典》，北京大學出版社

馬欣華、常敬宇(1980)談“就”，《北京語言學院》1980年第二期

馬小兵（1996a）：試論表示允許範圍的「で」，《日語學習與研究》第3期
北京對外貿易大學

馬小兵（1996b）：「許容範圍を指示する「で」の用法について」『筑波日
本語研究』創刊号 筑波大學日本語學研究室

森田良行（1980）：『基礎日本語2』角川書店

矢澤真人（1987）：「連用修飾成分による他動詞文の両義性—状態規定の
『～デ』と他動詞文の修飾構成について」『国語国文論集』16学習院女
子短期大學国語国文学會

【注】

- 1 ここでは特に格助詞の「で」と、判断助動詞「だ」の連用形の「で」とを区別しない。

- 2 このタイプの“就”は、中国語では「副詞」と見なされているが、日本語の「で」を比較しやすくするために、その品詞について特に論じない。
- 3 馬小兵（1996b）は、「許容範囲」について、「ここで言う許容とは、容認・認可できることである。物事に対して、容認するかどうかは、人々はそれぞれの基準に従って、判断する。その基準に達したら、その許容範囲に入ることになる。よって、人によって、物事によって、場面によって、その許容範囲が変わるので、ここで言う許容範囲とは、話し手の発話する時の許容範囲である」と（p51）説明している。
- 4 (11) cの“我就能做。”は許容範囲を示しているが、特に序列の差があることを感じられない。また、“我就能做。”の意味は、「ちょうど私が出来る」のように異なった意味にとれる場合もある。
- 5 注4を参照されたい。
- 6 本論文で言う「格下げ」とは、「これぐらい、簡単だ」などの語が表すような「普通より低い」という意味である。